

魚の繁殖生態(4)

マゴチの繁殖行動を産卵期の6月にビデオカメラで観察しました。産卵時刻は17時前後でほぼ一定でした。この時刻前になると、全ての雄と産卵する雌が砂中から姿を現しました。先に雌1尾が浮上すると、1尾ないし数尾の雄が追尾しました。それぞれは旋回しながら浮上し雄が先に放精し、次に雌が放卵しました。雌の放卵は数回の浮上行動を繰り返した後に行われましたが、雄は放卵が無い場合でも放精しました。マゴチの雌を釣上げると、雄が水面まで追いかけてくる可能性があります。もしかしたら、雄は産卵行動と勘違いしたのかも知れません。ここで紹介した内容の映像は、海生研ホームページでご覧になることができます。



マゴチの受精卵(産卵後22時間、直径0.85mm)と孵化仔魚(孵化後48時間、全長2.88mm)。産卵水温24.4℃、発生温度23℃。

財団法人海洋生物環境研究所は、発電所の取放水等が海の環境やそこに生息する生物に与える影響を科学的に解明する中立的な調査研究機関として、農林水産省、経済産業省、環境省の共管のもと、昭和50年に設立されました。

これまで大規模発電所の取放水が生物に及ぼす影響の解明を中心に海洋環境中の放射能や化学物質の実態把握等の調査研究を国や民間からの委託を受けて実施しております。

海の豆知識 第27号

平成18年4月 発行

発行所

財団法人 海洋生物環境研究所

事務局 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29 帝国書院ビル5階 ☎(03) 5210-5961
中央研究所 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田300 ☎(0470) 68-5111
実証試験場 〒945-0017 新潟県柏崎市荒浜4-7-17 ☎(0257) 24-8300

海の豆知識に関するお問い合わせは、事務局までお願いします。
<ホームページ> <http://www.kaiseiken.or.jp/>

かいせいけん

海の豆知識

Vol.27

★★★ 魚のことわざ ★★★



財団法人 海洋生物環境研究所

魚のことわざ

(その25)

—サヨリ—

海とその生物にまつわる^{ことわざ} ^{かくげん} 諺や格言についてお話し
しましょう。

今回のテーマのサヨリはダツ目・サヨリ科の海産
魚です。

サヨリは日本全国の沿岸部、内湾、河口の汽水域
などに分布し、主に動物性のプランクトンを食べ約2
年で成魚となります。堤防や磯周りを回遊する1~3
月がサヨリ釣りのシーズン。早春の産卵前と晩秋が
旬の魚で、脂がのって美味しいです。サヨリは鮮度
落ちが速いので、手早く三枚におろしたほうがよい
といわれ、淡泊な白身で、「結びサヨリ」は椀だねに
最高、大型は糸造りにしてもうまいし、にぎり寿し
のネタにも使われます。そのほか、酢の物、昆布締め
、天ぷらなどの食べ方があります。



「^{さよ}針魚は^{あめ}雨を^つ釣れ」

サヨリは大きな群れを作って磯（岸）近くを回遊するが、警戒心が強く臆病な魚。人・船影を見るとサッと逃げてしまう。従って、晴れた皿の日よりも曇天か雨の日。かつ、潮の濁っているときが釣り時。

そして「針魚は一人で釣れ」「針魚はコマセで釣れ」ともいう。釣り人が大勢いるとサヨリは警戒して寄って来ない。またコマセで釣る魚ではあるが、大勢ではコマセが効き過ぎてサヨリはコマセで腹一杯。釣り人の餌は食べなくなる。釣りとは難しいものである。



「サヨリと^{ます}鱧」

サヨリもキスも腹の内側が薄い黒膜で覆われているところから、腹黒い人を指す代名詞。「さより野郎」「さより女」は、見掛けは美しくても腹黒い人の形容。